議　　長　次に、質問順位　５番　１番議員　灰岡裕美君。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　通告に従いまして、和木中学校の生徒数の推移について、和木町のデイサービスの利用状況について、２点質問させていただきます。

まず最初に、今更申し上げる事も必要もありませんが、和木町の教育、福祉は他の自治体に比べて大変充実していると思っております。小さな自治体だからこそ出来るきめ細やかな施策が実現されており、実際に視察等で他の市町村に伺った際に、和木町の話をいたしましたら、大いに驚き羨ましがられるのが現状です。教育環境のみを挙げて見ますと、小中学校校舎の耐震化、幼小中の給食無料化、中学３年生までの医療費助成、小学校放課後児童クラブの開設、中学校ホームステイ事業、小中学校ＩＣＴ機器の導入、英語検定受験料の助成など、他の自治体には見られない施策が沢山あげられます。今回の質問をさせていただくにあたりまして、実際に岩国市内の結婚式場に話を聞きに行きました。結婚式の相談に来られる若い方の多くが、ぜひ和木町で子育てをしたいと話されてるそうです。それではなぜ和木町の人口が増えないのかを考えたのが、今回の一般質問の発端です。

質問に入ります。最初に、和木中学校の生徒数の推移について質問します。町内にただ１つの和木小学校の卒業児童数は、平成２０年以降、だいたい６０人から８０人前後で推移しております。もう少し遡りまして平成１６年以降も大きな差異はありません。その中で和木小学校を卒業後、他の私立中学、または中高一貫校に進学する生徒数を調べてみました。平成２０年からの数字であります。平成２０年度、卒業児童数が６７名、内中高一貫校、私立中学に進学者数が３人、４．４８％。平成２１年度７０人の卒業生に対して、進学先が、先の中高一貫校、私立校の進学先が３名で、４．２９％。平成２２年度は児童数

７３人に対して６名８．２２％。２３年度は５７名に対して、２名３．５１％。平成２４年度、８４名に対して６名、７．１４％。昨年平成２５年度は、６５名に対して５名７．６９％と推移しております。ちなみに１０年前の平成１６年度は、８３名に対して５名６．０２％でした。重ねて申しますが、本年度平成２５年度は、卒業生６５人に対して、一貫校、私立校へ進学した生徒は、やはり５名で、全体の７．７％でした。

質問いたします。１０年前と比較して生徒数にばらつきがありますので、正確にお答えするのは難しいかもしれませんが、昨年度７．１％、今年度７．７％と中高一貫校、私立中学校への進学生徒数が増えている事に対してどうお考えかお伺いいたします。

議　　長　渡邊教育委員会事務局長。

渡　　邊
教育委員会
事務局長　まず、ここ数年の推移は、今、灰岡議員がおっしゃられたとおりで、１０年間で、私立中、または一貫中に進まれた和木小学校の卒業生は、大体５名前後で推移しております。これに関しましては、ちょっと答えが難しいんですけれども、私立校の教育力の高い学校へ向かう事に対して、和木中学校では、先ほど議員がおっしゃられたように県内で類をみない教育施策を実施する事によって、生徒数の維持といいますか、していく事が出来るのではないかと考えているところでございます。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　申し訳ありません、質問の仕方が悪かったかもしれませんが、ちょっともう一度重なるかもしれませんがお伺いいたします。

先にあげました和木町ならではのきめ細かい教育施策があるにもかかわらず、生徒数が横ばいである理由、そして中高一貫校、私立中学校進学生徒数が、小幅ではありますが少しずつ

増えている理由について、お考えがありましたらお伺いいたします。

議　　長　米本町長。

米本町長　私からしますと、少しずつ増えているんではなくて、６０名から８０名の間で推移してる生徒数の中では、約５％前後の方々は、そういう私立の方に行かれるという方がずっといらっしゃるというふうに捉えております。決してうちの町が、また和木中学校が、他に比べて劣っておるとか、そういう事をお考えで多分保護者の方も私立の方へ行かされていらっしゃるんではないと私は思っております。

その他の理由に関しましては、ちょっと思い当たる事はございませんが、これだけの生徒数の中であれば、そのぐらいの確率で行かれる方がいらっしゃるのが普通ではないかなというふうに思っております。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　お答えし難い質問で申し訳ありません。この問題は、今後の和木町の人口増対策にも大いに関わってくる問題だと思います。町長にお伺いいたします。町長の公約にもありましたように、小中一貫教育導入も含めまして、和木町内の小中学生の生徒数増やすための方法や、方策ですね、展望がありましたらお聞かせ下さい。

議　　長　米本町長。

米本町長　生徒数、早く言えば子供の数を増やす方策というご質問でございますが、先ほどもお話をいたしましたが、小中学校のレベルアップをするだけでは子供の数は増えてまいりません。と申しますのも、今、日本国全体が子ども、少子化というのが進ん

でおります。私が読んだ本によりますと、今直ちに出生率が２．１を達成したところで、人口が増えてまいりますのは５０年先、６０年先という事でございます。ですから、教育レベルがどうとかそういう事では生徒数は増えてまいりません。日本国全体が少子化に向かっている訳でございます。やはり町の人口が増え、そして沢山の子供さんが生まれるようにならなければ出来ないのではないかというふうに思っております。

また、現在では町外からの通学を認めてない状況であれば尚更でございますし、そもそもその地域全体の子どもの数が増えてないところで、なかなか学生、小学生、中学生の数を増やすというのは難しいというふうに思っております。私といたしましては、特効薬が無い以上、国と連携して人口増加策を積極的に進め、地道に住みよいまち和木町を創り上げて、人口増加を目指すしか方法が無いと考えております。

議　　長　　灰岡裕美君。

灰岡議員　　ありがとうございます。先ほども申しましたが、これほど恵まれた教育施策があり、施設があり、環境があるにも関わらず、和木町への子育て世代の転入が増えないのはもったいない事だと思います。確かに少子化という事で人口は減っておりますが、和木町独自の施策を皆さんに知っていただき、アピールして、和木町は子育てしやすい町だ、和木町に住みたいという皆さんが増える事がまず１番の今出来る人口増対策の一助になるのではないでしょうか。町長がおっしゃったように、もちろん地道な人口増対策も必要です。でも今ある施策を皆さんに知っていただき、和木町に転入していただくという事も大いに大切な事だと思いますので、ある意味和木町の対外的な営業活動も併せて進めていく事が、和木町の今ある、子育てし易い町和木町という事をアピールする事が大切なのではないかと思います。

次の質問に移ります。和木町の高齢者のデイサービス利用状

況についてお伺いしたいと思います。
　まず最初に、担当に伺います。和木町内の介護保険対象者数、介護認定者数、月平均のデイサービス利用状況をお伺いいたします。

議　　長　森本保健福祉課長。

森本保健福祉課長　高齢者のデイサービスの利用状況ですが、対象者数は、現在１，５９４名で、介護認定を受けられておられる方は、要支援、要介護あわせて３４３名でございます。そのうちデイサービスを利用している人数は、月平均で８０名の方が利用されておられます。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　次に、通所型介護サービス、デイサービスですね、の利用地域についてお伺いいたします。

議　　長　森本保健福祉課長。

森本保健福祉課長　デイサービスの地域という事でございますが、特に地域というのはございません。ケアマネージャーとご本人が相談の上、利用施設を決定いたします。
　デイサービスが利用出来る施設は、和木町ではわきあいあい苑デイサービスセンター１ヶ所、大竹市ではゆうみデイサービスセンター等７ヶ所、岩国市では、いこいふじ等１０ヶ所がございます。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　手元に岩国市内及び近郊の介護保険サービス事業所一覧というのがあります。この中に介護の種類を申しますと、居宅介

護支援事業所、介護予防支援事業所、訪問介護事業所、訪問入浴介護事業所、訪問看護事業所、訪問リハビリテーション事業所、通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所、短期入所生活介護事業所、特別養護老人ホーム、その他認知症対応型グループホームなど特別養護老人ホームももちろん、実に様々な種類があります。

この中で、ご存知のとおり、和木町には特別養護老人ホームわきあいあい苑があります。わきあいあい苑では、介護老人福祉施設、居宅介護支援、訪問介護、通所介護、グループホーム、ショートステイなどの介護サービスを行っております。

中でも、現在通所介護のサービスはご高齢の方のニーズに合せて、種類が多種多様になっているようです、先日、テレビで見たデイサービスの内容を申し上げますと、例えば酒場を介護施設に改造し、夜８時まで開設している所。廃校になった学校を養護施設に改造し、ご高齢の方が楽しく学べる施設等、高齢者の楽しく過ごせる場所になるよう変節しているのが現状です。

質問いたします。現在、わきあいあい苑の通所デイサービスでは、どのような内容をされているのか教えていただけますでしょうか。

議　　長　森本保健福祉課長。

森本保健福祉課長　わきあいあい苑でのデイサービスの内容でございますが、午前中にですね、入浴、脳トレ手作業、これはちぎり絵等ですね、あと口腔体操、で昼食をとりまして、昼からはレクレーション、坊主めくりとか体操、集団レクレーションを行います。風船ゲームとか玉入れなど、あと季節にあわせて花見とか紅葉見学に行っております。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　ご高齢の方がデイサービスに通われるのを楽しみにしていらっしゃるという事はよく耳にします。ただ、先ほども申しましたように、今の高齢の方の現状に対しましてデイサービスも変節していくべきだと思います。

最後にリハビリテーションについて伺います。通所リハビリテーション事業所っていうのは、医療施設や老人保健施設などに通っていただき、日常のお世話や理学療法士などによる機能訓練を行う施設です。和木町近郊では何処にあるのかお答え下さい。

議長　森本保健福祉課長。

森本保健福祉課長　和木町近郊では、大竹市にですね、新和会大和病院、老人保健施設ゆうゆの２ヶ所がございます。岩国市では、デイウォークの１ヶ所がございます。また、老人保健施設については岩国市に老人保健施設フレンズなど７ヶ所ございます。病院については、岩国市に山口平成病院の１ヶ所がございます。

議長　灰岡裕美君。

灰岡議員　その中、今、挙げていただいたリハビリテーション事業所について、和木町の方がどのようなところに通ってらっしゃるかという資料というか、データは無いという事ですので、皆さんが１番近い所は川向こうの大竹にある施設という事でよろしいですね。

今後、体力や機能低下の予防としてリハビリ訓練を備えた介護サービスは、ますます必要になっていくと思います。和木町内にそのようなリハビリ機能訓練を備えた施設を開設することは難しいのでしょうか、教えていただけますでしょうか。

議長　森本保健福祉課長。

森本保健福祉課長　通所リハビリテーションのできる施設という事でございますが、これは設置要件が県の許可制になります。それで設置要件として、介護老人保健施設、病院、診療所であることが申請の要件となります。その他、人員基準、設置運営基準があります。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　いろいろ設置基準等が定められておりまして、和木町内にはなかなか難しいというお答えでよろしいんでしょうか。

議　　長　森本保健福祉課長。

森本保健福祉課長　設置要件として、今の老人保健施設、病院、診療所という事が申請要件であることから、これを充たすのはなかなか難しいと考えております。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　わかりました。それでは最後に町長にお伺いさせていただきます。高齢者の病気予防、機能回復訓練等の健康づくりに対しての考え、今後の展望についてお聞かせいただけますでしょうか。

議　　長　米本町長。

米本町長　今、述べました、通所リハビリテーションの施設を和木町内に設置するという事は、今の答弁のとおり、ほぼ不可能の形をとると思います。やはり高齢者でいらっしゃいます方は、日頃からいろんなサロン等を使っていただいて健康を維持していただく事が一番ではないかというふうに思います。

現在その通所リハビリ施設は町外にはございます。もし本当

にそちらに行かれなければならない方がいらっしゃいましたら、大変申し訳ないんですが、そちらの方でご利用いただきまして、それに対する支援という事をやっぱり考えていきたいというふうに思います。

しかしながらやはり健康を維持していただくことが一番ではないかと考えますので、そのための施策というのは、やっぱり今後もいろいろと考えていく必要があるというふうに考えておるところでございます。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　了解いたしました。先に質問した子育てしやすい町と共に、高齢者が住みやすい町として、和木町には敬老金給付制度、寝たきり者介護見舞金の支給、福祉タクシー利用助成制度、他にも先ほど町長がおっしゃいましたように、各地区のサロンや転ばぬ先のちえ運動など様々な施策が現在あります。全ての世代が元気に明るく毎日を過ごせる町として、全国に胸をはれるようますますニーズに答えた教育や介護サービスが充実し、それを全国に発信して、町内への転入の方が増え、町が、ますます町政が盛んになり、町民の方が楽しく毎日を送れる町として、和木町が益々発展することを望みます。以上で質問を終わります。

議　　長　再質問がないようですので、以上で灰岡裕美君の一般質問を終わります。